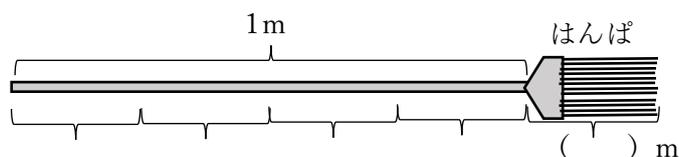


2-(8) 2年の分数

昔は4年生で分数を教えていましたが、15年ほど前に2年生から分数を教えることになりました。その結果、面白いことが3年生で起こりました。それは3年生の分数の授業で次のような問題を出したときのことです。

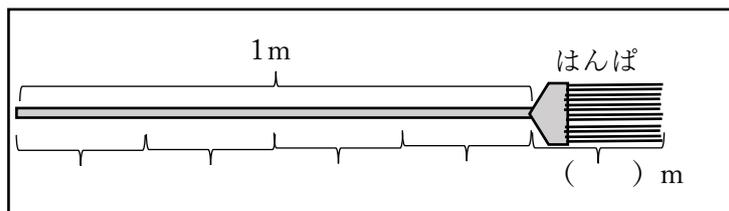
問題：教室にある箒の長さを測ると1mと少しの長さがありました。その半端の長さを基にして1mを測ると半端の長さ4つでちょうど1mになりました。半端の長さをは何mでしょうか？分数で表しましょう。



この問題は分数が半端な量を表す表現方法であることを示す、典型的な問題でほとんどの教科書がこのような形で教えるようになっていました。正解は半端な量は4つ集まると1mになるわけですから、ひとつ分の長さは $1/4m$ という分数になります。

ところが、2年生で分数を扱うようになってから、この半端の長さは「 $1/5$ 」だという子どもがすごく増えてきたのです。もちろん2年生であつかうようになる以前の分数の学習でも $1/5$ という子どもはいました。ところが2年生で扱うようになってからは $1/5$ でいいはずだと言いつける子どもが増えてきたのです。

その理由は2年生の教え方にあります。2年生では分数は「対象を○等分したひとつ分の大きさを $1/○$ と表す」という言い方で教えるようになってきているからです。確かに分数にはいろいろな定義の仕方があり、どれも正解であるというやっかいな性質があります。しかし、算数教育ではどういった教え方が最適なものは慎重に考えないといけません。2年生で対象を3等分したひとつ分を $1/3$ という風に教えてしまうと、例えばこの箒の半端の長さのような問題が読み取れなくなる可能性があります。もちろん3年生で教え直すので心配ないと思われるかもしれませんが、そうではありません。人は一番最初にであった事柄の印象や思い込んだりした事はなかなか拭い去ることが出来ません。また、悪いことに分数は親御さんも「いくつに分けたいくつ分」という言い方で教えることが多いのです。ですからここで心がけて欲しいことは分数を説明するときに「○○をいくつに分けたいくつ分」という言い方をしておいて欲しいのです。



←半端の長さは**箒全体を 5**つに分けたひとつ分「 $1/5$ 本」
←半端の長さは**1mを 4**つに分けたひとつ分「 $1/4m$ 」

(これは親御さんに知っておいて欲しいことです)

